



## 日本舞踊に 魅せられて

藤原 美知子 さん  
宮中 由香里 さん

11月11日に大分県で行われる第33回国民文化祭・おおいた2018、第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会「日本舞踊の祭典」へ、北海道を代表して出場するお二人にお話を聞きました。

### 日本舞踊の祭典へ向けて

**師範**の資格を有する藤原美知子さん（白樺町在住）と宮中由香里さん（西町在住）は、西川流の「西川鯉延こいえん」師匠のもとで稽古を重ねています（一定の稽古の後、希望により名取試験を受けることができ、合格すると名取名を受けます。その後、日本舞踊を教えるための「師範」の資格があります）。舞台に出る時には、藤原さんが「西川延雀えんじやく」、宮中さんが「西川延夢二えんゆめじ」という名取名。お二人は、この11月に大分県で行われる「日本舞踊の祭典」で長唄みやこどり「都鳥」を披露するため、日々、稽古に励んでいます。

**藤原**さんの日本舞踊歴は幼少期に5年、西川流では29年。今回の舞台への抱負を聞いてみると、「初めての全国の舞台では、西川流の看板を背負って踊るので、頑張らなきゃと気持ちを新たにしています。ほとんどの舞台ではカセットテープを流して踊ることが多いですが、全

国の舞台では「地方じかたさん（三味線・鼓・笛などを生でひく人）」の音楽で踊ることがとても楽しみ。今回、ご披露する長唄「都鳥」は、隅田川の古来からの往来を述べ、船遊びから男女の逢瀬おうせなどを歌っています」と藤原さん。

**宮中**さんは日本舞踊歴13年。今回の抱負を聞くと、「日本舞踊は一人で踊ることがほとんどですが、今回は藤原さんが姉さん役、私が妹役として二人で踊ります。大先輩（藤原さん）の足を引っ張らないように、呼吸を合わせて踊ります」とお話ししてくれました。

### 日本舞踊をもっと広めたい

**日本**舞踊は、「三味線や笛などの音楽に大変癒やされる」という藤原さん。「和服の着付けや礼儀作法も学ぶことができる」と日本舞踊を勧める宮中さん。町内施設で7月から行われた全7回の講座と発表会、「日本舞踊の体験特別講座（文化庁伝

統文化親子教室事業）」では、若い世代に日本舞踊を広めたいと、講師や運営などに関わりました。



「日本舞踊の体験講座」発表会の様子

### 当別教室は創立50周年

**西川流**の当別教室は、今年で創立50周年を迎えました。その記念すべき年に、11月に大分での「日本舞踊の祭典」への出演、初めての試み「日本舞踊の体験特別講座」への関わり。すべて、日本舞踊がご縁でめぐり合わせてくれた光栄な出来事と、藤原さんと宮中さんは喜びもひとしおの様子でした。

全国大会の晴れ舞台での成功をお祈りしています。

（10月5日取材）